

鶴ヶ島市の概要

鶴ヶ島市は、埼玉県のほぼ中央、都心から 45 km 圏内に位置し、坂戸市、川越市、日高市と接している。鎌倉時代には鎌倉街道^{かみつみち}上道が通って周辺に市が立ち、また江戸時代には日光街道の要衝として栄え、中頃には武蔵野新田開発の拠点になった。干ばつの時に行われてきた「脚折雨乞行事」が、現在は 4 年に一度の伝統行事として行われて、貴重な民俗文化財として継承されている。明治 22 年に町村制が施行され、12 か村・2 新田が合併し「入間郡鶴ヶ島村」が誕生、昭和 41 年に「入間郡鶴ヶ島町」となり、平成 3 年 9 月 1 日に市制を施行し、現在の「鶴ヶ島市」となった。

市域は東西約 7.3 km、南北約 4.3 km で、総面積は 17.73 k m²。平成 12 年の統計で、畑が約 27%、宅地が約 32% を占めている。地形は概ね平坦な洪積台地であり、武蔵野の面影をとどめる雑木林と農村的風景が残っている。昭和 50 年代に入ると民間企業による大規模な開発が始まり、住宅団地も若葉台団地、川鶴団地が完成し、加えて、交通の便が良いことから都心通勤者のベッドタウンとして人口が急増した。平成 15 年 12 月 1 日現在 68,447 人、世帯数は 25,834 世帯に達している。近年は人口、世帯数ともに微増傾向で推移している。

交通は、市内を国道 407 号が南北に走り、さらに関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が鶴ヶ島ジャンクションで結ばれ、2 つのインターチェンジ（鶴ヶ島、圏央鶴ヶ島）があって交通の便に恵まれている。また鉄道は、東武東上線の「鶴ヶ島」駅、「若葉」駅と東武越生線の「一本松」駅があり、鶴ヶ島駅から池袋まで約 40 分、地下鉄有楽町線との相互乗り入れで有楽町までは約 60 分で結ばれている。バス路線は、若葉駅から川越駅（東坂戸団地経由）八幡団地、鶴ヶ島駅から川鶴団地、いせはら団地へ東武バスが運行し、平成 8 年より市内循環バス「ふれあい号」が東・西コースと朝・夕便で運行している。

市の産業は、かつては養蚕や茶業を主とした農業中心であったが、急速な都市化により農地が 30 年間で約 64% も減少した。南西部区域においては工業系中心の土地区画整理事業（鶴ヶ島市南西部第一期土地区画整理事業 43.5ha）が進められ、先端技術産業や研究開発機関等の優良先端産業の立地を誘致している。また、商業施設は駅前と国道沿いに集積しているが、平成 16 年に若葉駅東口の筑波大学跡地にスーパーマーケットや各種専門店のほかシネマコンプレックス、飲食・サービス施設等による複合商業施設をオープンする予定である。

市は平成 12 年度に「21 世紀まちづくり計画」（総合計画）を策定し、生活基盤整備を進めるため 4 地区の土地区画整理事業を重点的に推進するとともに、駅周辺地区を商業や業務を集積させる拠点的な地区として整備を進めてきた。現在、若葉駅西口は平成 16 年 3 月の開設に向けて駅前広場と自由通路等の整備を進めている。